

編輯室の内外

△早や櫻月と爲つた、編輯室を飛び出して長閑な春に酔ふのも間近に迫つたが、新しい出版に其の餘裕さえ與へられないやうだ。道路行政研究資料の發行やら道路講習録の出版やら、等々、と次から次へと遂はれてゐる。併し何やら隔日月ありと言ふ辭もあるから自然の恵んで呉れた陽春に編輯室の一隅に燻つてゐるのも自然に反する、と言ふやうな理屈を附けて人間らしい享樂に耽りたいたものだ。

早く鐵道萬能の舊夢から醒めて道路の改良に専心ならむことを望むのである。

△昭和七年度に於ける本會の事業も大體内定したから近く發表するであらう、唯だ不景氣に見舞はれて編輯同人の理想とするところの總てを執行することの出来ないのは頗る遺憾である。口善惡ない連中は矢張り政府の産業土木計畫と同じやうに聲ばかりで實行が伴はないと言ふであらう、或は至言かも知れないが、同人の聲明は政府の夫れとは違つて選舉に利用した譯で無いから罪が輕いものとして勸辨願ひたい。

△誌面の刷新には常に心懸けてゐる積りだが、まだ同人共の満足する運に至らないのは遺憾である。併し本月からはカットを減少して登載文の多からむことを期し、ゴシップ欄を増設して時事を批評すると同時に執筆者を紹介するの途を設けた。同人一同の心ある所に御同情願ひたい。同欄は丹波浪人の執筆するところであるが、同氏と路

政僧とを混同して其の所論に付彼是非難さるゝやうであるが、併し兩者は全然別個の人であることを表明しておく。路政僧のことなら其の近情に對し攻撃さるゝ向もある殊に佐上北海道廳長官の如きは老耄したとまで酷評されてゐるが、事實は決してそうで無い、近く例の筆法を以て路政を論議するであらうことを附加しておく。

本誌定價 五十錢
 一ヶ年分 金 六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内
 發行所 社団法人 道路改良會
 東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六
 發行兼編輯者 小島 效

東京市小石川區諏訪町五六
 印刷所 常磐印刷所
 印刷者 堀江關武